

第1分科会 「飼育の基礎とふれあい体験」

中川美穂子

1 飼育の基礎

飼育の基本は、掃除しやすい飼育舎に比較的世話のかからない動物を飼い、子どもたちに適度に負荷がかかる世話の継続で、動物の健康を気遣い、友達との協力関係を構築し、動物への愛着を培うことにある。

負担の少ない飼育については、別に記述した。また、飼育のはじめと終わり方についても、実例から良いと思われる方法をしるしたので、ご参考にしてもらいたい。

2 ふれあい教室

子どもたちの飼育動物への愛着をつくるには、動物に最初に接するとき動物の体と心情を説明して、実際に心地よい接触体験（つまり落ち着いた雰囲気の中で抱かせる体験）をさせる。実際には、動物を疲れさせないため15分ほどで接触体験を終えるように、保護者の参加をもとめ、獣医師の講和と抱っこ指導を用意する。

3 ふれあい時、最初に注意すること

(1) 動物への気遣いを伝える。

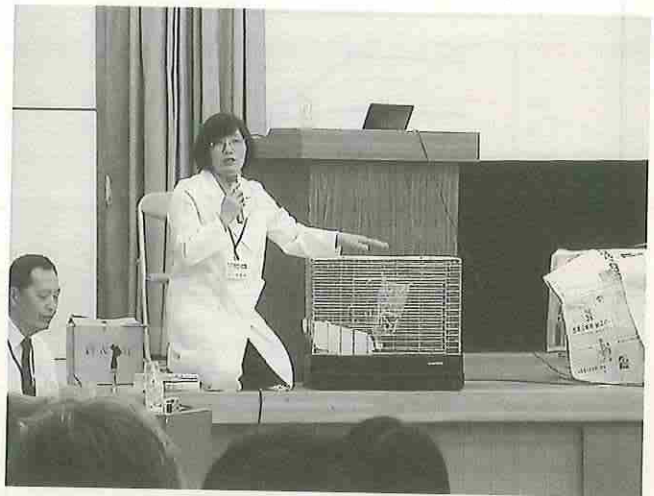
- ・身体の大きさ、動作の大きさから言えば、動物の方が人を恐がっていることを紹介する。だから、動物を怖がらせないように、人は静かに話し、静かに動くことを求める。
- ・動物を強く抱きしめず、穏やかな気持ちで受け止めること。人が恐がると筋肉が硬くなり、動物がすぐに恐怖を感じて暴れ出す。

(2) 「命には休みがない」と子どもに伝えるために、土日の世話を子どもにやらせるが、保護者も一緒に行くように案内する。

(3) 接触時の具体的注意

子どもの足を動物が引っかいても良いように、バスタオルを2つ折にして、膝に置いて足を保護する。

- ・動物が暴れるときは、獣医師あるいは動物を分かっている人が抱き取り、よ



しよしと安心させてから、子どもに戻す。それでもだめなときは、バスタオルで新生児のようにくるむと落ちつくことが多い。子どもには、タオルから見える顔や背中を触らせる程度にする。（ウサギやハムスターに多い）

- ・かわいがられていないウサギをふれ合いに使うときは、非常に注意が必要。低学年には困難だろう。
- ・ウサギが咬む場合、ウサギをくるんだバスタオルで、ウサギの口を隠す。
- ・チャボは羽が開かないように抱かせれば、実に落ち着いている動物。今まで、チャボが悲鳴をあげて大騒ぎした事例は、いつも子どもからいじめられていたのに、この体験に初めて参加させられた1羽だけである。
- ・チャボは黒いものをつつく習性があり、真近にニラメッコしないように注意。
- ・チャボは耳後ろや目の周りをなざると気持ちよさそうに目を閉じる。人を信頼するとおとなしく、安心な動物である。
- ・ハムスターはすぐに嫌がって咬むことが多いので、あまりこの体験には適さない。
- ・モルモットは、おとなしく優しい性格。暴れた時は、床に降ろして落ち着かせれば良い。
- ・ウサギが暴れると、自分で背骨を折っ

て急死することがある。初めて抱く場合は必ず獣医師等の支援を受けること。

④事後の手洗いは、外遊び後にするのと同じく常識であって、動物がことさら不潔という訳ではない。食事の前に手を洗うのも常識。

(※全国学校飼育動物研究会事務局長)

4 ふれあい授業の器材、準備、抱かせ方について

(1) 器材

- ・獣医師会：拡大心音器1台(電源)、(絵を見せながら話すかもしれない)
- ・園、学校：ワイヤレスマイク(心音計の音を拾う)
- ・長い机1(心音計をおいて、動物も載せる台)
- ・ウサギとチャボ(可能ならつがい)をダンボールやケージに事前に会場に用意(段ボールやケージには新聞紙を敷いて下さい、喧嘩するのは分けておく)
- ・バスタオル1班に2枚、ゴミ袋 新聞紙(ケージに敷いて汚れたら取り替える)
- ・他：鳥の糞用に ポケットティッシュ

(2) 児童の準備：

事前に手を洗って汚れをウサギやチャボにつけないように注意。

アトピーの子について：チャボ班にする。(ウサギのほうが反応する人が多い)

心配なら、保護者と相談し、マスクと長袖、(ウサギをタオルに巻いて子どもの肌に触れさせないようにする)事前に何人が、またどのお子さんかピックアップしておく。

(3) 接触体験：

児童を班に分ける。抱くのは15～20分間(動物が疲れるから これ以上は抱かない)夫々に1匹の動物と、保護者2名、または担任が補佐する。

目的：動物にとってつらい時間ですが、児童は抱いて初めて「かわいい」という感情が湧かせるために、抱いてもらう体験をさせる。しかし、同時に動物の気持ちを大事にすることを児童に伝える。

児童が優しく扱えばおとなしい動物なので、抱いた感動を味合わせたい。その

感動を、より深くするため可愛いとの思いを抱かせるように語り掛けをする。そして、班の中で話し合う。



(4) だっこ指導法

事前に児童を丸く正座させておく(正座だと 動物が落ち着く)

教師・補佐者は児童の膝のバスタオルの上に動物をのせ、手を添えさせて抱かせる。

傍でタオルを児童の膝に乗せたりなどの補佐して下さい。次の児童を隣に座らせておく。

補佐者・教師は決して悲鳴を上げないで、穏やかに対応して下さい。

*抱かせ方：動物の頭からお尻まで片手(左手)で支えさせ、別の手で背中や頭を撫ぜさせる。動物の頭を児童の左ひじの所に突っ込ませるように抱かせる。児童の膝が半ズボンで足が動物のつめで痛むので、必ずバスタオルを膝にかけて、印象を悪くするのを予防する

*感化：大人は児童に、可愛いでしょう。とか、そっと撫ぜると喜ぶよ、とか小さい手だね、とか話しかけ感化する。抱いた感じはどう？と感想を聞く

*注意点：ウサギの口の前に指をだしてからかわないこと。ニワトリと間近でニラメッコしないこと。目をつつかれる。

(5) 最後、獣医師からの発信：(児童に動物さんに対する感謝を沸かせる)

学校の動物を可愛がってね。みんなは一日3回もたべているのだから、ウサギもおなかすくのはおなじこと。自然の中にいたら、自分の糞のないところで、食

べたり楽しく過ごせます。

でも、このウサギはみんなのために、ここにいるのだから、きれいにしてあげて、餌も水もいつも食べられるようにしてあげて下さい。特に休みの日には親御さんと一緒にくるなど、必ず世話をして

あげてほしいと思っています。

動物は言葉が言えないから、動物がよろこんでいるかどうかを、動物の顔を良く見ていつも考えてあげてね。

動物の命はあなた達がにぎっているのですよ。

(6) 総合的な学習における「飼育」の指導案

西東京市立保谷第二小学校

<単元名> 飼育を通して (第4学年)

<単元の目標>

- ・動物の飼育体験を継続して実施することにより、生命尊重の心を育てる。
- ・動物に対する興味関心を高め、飼育の過程で生じるさまざまな課題に創造的に取り組める資質を育てる。

<評価規準>

学習活動への 関心・意欲・態度	総合的な思考・判断	学習活動に関わる 表現	知識を応用し 総合する能力
○動物の飼育に興味を持ち、自分から進んで世話をしようとする。 ○思いやりのある態度で動物に接したり交流しようとする。 ○友達や3年生に飼育の仕方や様子を伝えようとする。	○毎日の世話は苦勞も多いが、その地道な活動が命をつないでいることを考えることができる。 ○生き物と人間の関係について調べたことを基に、相互のかかわりについて考えることができる。	○体験したことをさまざまな方法で、ほかの人に伝えるためまとめることができる。 ○引継ぎ集会の計画・実行にあたり自分なりに伝え方を工夫することができる。	○動物の世話の仕方には、それぞれ理由があり、そのときの状態に応じた接し方に気づくことができる。 ○生き物の特徴や、人との違いに気づくことができる。

<年間指導計画> (35時間扱い) ○の中は、時数。

- ・4月・・・初めての飼育活動開始。仕事の手順、当番のローテーション、休日飼育等の確認。④

保護者会での説明。(生命尊重、使命感、心の成長、親子飼育ボランティアの説明。)

- ・5月・・・次の学級への引継ぎ集会。②

飼育入門オリエンテーション(獣医師との連携)②

- ・6月・・・飼育新聞作りー1。ニュース仕立てにした発表会。④
- ・7月・・・夏の間の飼育方法の確認、当番の分担。夏の飼育活動。②
- ・9月・・・「動物教室でさらに関心を高めよう」(獣医師との関連)②
- ・10月・・・飼育新聞作りー2。④
- ・11月・・・動物の気持ちを感じて学芸会に取り組もう。④
- ・12月・・・冬の間の飼育方法の確認、当番の分担。冬の飼育活動。②
- ・1月・・・引継ぎ集会の持ち方。プログラム、資料作り。④
- ・2月・・・3年生への引継ぎ集会。②
- ・3月・・・3年生飼育見習い期間。(3年生と共に飼育をする期間)③

*休日も含めて毎日の常時活動を当番制で実施する。

<他教科との関連>

- ・国語・・・体験したことから文章は溢れるように出る。飼育新聞作り二回を通して表現させる。また、作文教材と関連させた指導が効果的である。学習発表会「ぞう列車よ走れ」等の台本作り、演技の取り組みでは、飼育体験の感想をセリフにしたり、飼育動物と登場する動物との違いや共通点を考えながら演技を考える指導。
- ・理科・・・季節による動植物の変化の単元の、生命の連続性と関連させる指導。また

獣医師の支援を得て子どものもつ疑問を掘り下げ、新たな疑問・事象のつながりに興味を持てる指導。

- ・体育（保健）・「育ちゆくわたし」の単元で体の成長や、第二次性徴と関連させる指導。
- ・図工・愛情をもってかかわっている動物に対して、興味を持って観察するため大きな表現力を発揮することが見られる。
- ・道徳・弱いものを支配しようとする潜在的な心情や独占欲に気づき、初めて相手の立場を思いやる心が育つ。「〇〇してあげる」から「〇〇してほしいのかな」という同等の立場まで深まっていくことで対等の関係ができる。ここまで意識が高まる「飼育」は、道徳的価値の高い体験活動といえる。

<飼育導入（ふれ合い）授業案>

（ ）小学校 飼育委員会または 学年 （ ）名

担当 （ ）教諭

月 日 （ ） 時間目 午後 時 から45分授業（準備は20分前から）

・目的

初めて飼育を担当する子どもたちに、獣医師の支援を受けて、動物の気持ちや体のことを伝えながら、動物を抱かせる体験をさせる。それにより、生き物の実感を通して興味を持たせ、親しみをわかせるように誘導する。また、これ以後、子ども達が情をもって動物の世話をすることにより観察が細くなり、生体の営みを理解し、弱いものへの思いやりや接触した喜び、生物にたいする科学的興味を培うように期待する。同時に、獣医師との交流で理科的な刺激を与え、将来の職業選択の幅をひろくしたい。

「ウサギとチャボを知って、世話しよう」

・会場：多目的室【注意・野外と体育館は避ける】

・児童： 名 （ ）班に分ける（1班 6～10～15名ほど）

・担任の先生：（ ）名 （ ）（ ）それぞれ1班につく
（獣医師等補佐）

・保護者：（1班あたり1～2名）（15分前に集まって頂き、抱き方など実習していただく）

・参加動物：学校の動物（ウサギ 羽、チャボなど（ ）羽）【注意・不足分は近隣校から借りる】

・獣医師： 名 獣医師会（ ）

・支援： スタッフ 名

準備段階で「動物が怖がるから騒がないで、しずかにしてあげてください」と注意

時間	内容	備考
挨拶 1分	（担当の先生）紹介	子どもさんを最初から班に分けて手を洗ってもらって下さい（※）
動物の話 8分	最初に、騒がないように注意（動物がこわがる） ニワトリ、ウサギとの仲良くなり方 動物の話をちょっとだけ、人への影響	獣医師・フリップで 絵を示して説明 あるいはPCから映写
動物の体 5分	抱き方指導 潰さないように、噛まれないように 心音を人と動物と比較	担任、子ども、動物と順に心音を比較（先生も心臓貸して下さい） 拡大心音計使用 かけ算
ふれあいタイム 15分	班にわかれ、ふれあう。 各班に担任の先生や保護者などの補助者がひとりずつつく 動物を配布（介助者が一匹ずつ つれて班につく）	正座のしっかりした膝にバスタオル2重に折って膝に置いて、その上に動物を抱かせる。 バスタオル1班あたり2枚 学校でご用意お願いします

質問タイム 10分	(担任が質問者を指名)	回答, 獣医師
挨拶 1分		(獣医師) 命を握っているのは「みんな」です.
まとめタイム	(担任)	挨拶

- ・宿題 何か一つだけ, 本当に思ったこと, 気になることがある人は書いて, 後日獣医師に渡す. (できたら先生もご意見をいただきたく.)

※人間から動物へ, また, 動物から人間へ病気をうつさないように, 動物に触る前と後には手を洗ってください.

- ・学校用意: バスタオル 1 班 1 ~ 2 枚, 新聞紙, (プロジェクター) (マイク) 動物 (ダンボール等に入れて, 会場におくがうるさいチャボなら最初は室外におく. 喧嘩する同士は箱を分ける) ゴミ袋, ティッシュ, 電源コード (3 ケ口) 長机 (心音拡大計と動物と資材おき. プロジェクターと PC 用計 2 ケ)

7 動物の話しポイント (絵を見せながらの)

(1) すみか

本当はウサギは野原で暮らしていて, いつでも食べ物はあるし, 綺麗なところで寝ることができる.

しかし, このウサギたちは, 一年 365 日, ここで目を覚まして, ここで排尿, 排便してたべて, またここで寝る. それは自分だったら辛いでしょう? でも外に出すと犬や猫にやられるから, 出さないけれど, みんなのためにここで暮らしている動物達が辛くないように, 餌に注意して, せめて綺麗なところで暮らせるように, 毎日お掃除をしてあげてください.

(2) 食べる

人は一日 3 回たべているけど, 動物だからって, 一日一回はつらいかもしれないし, 土日は食べなくて良いということはない.

命には休みがないので, おうちの人に一緒に来てもらって, 休みにもたべられるようにしてあげて.

人と同じに朝はお腹がすいている. 学校にきたらちょっと小屋を覗いてあげて, 水がなかったらたしてあげる. 餌も



なかったら入れてあげる. うちから野菜をもってきたら喜ぶね.

チャボのためには, 大きいと食べられないから, うちで野菜をほそく刻んで持ってきて.

なにが好きか, いろいろやってみてください.

(生の芋や豆 アボガド, またネギのようなのはダメ)

(3) からだ

人より小さい, 自分がウサギだったら, ウサギに触ろうとする今のあなたはどのくらいに見えるか, を想像させて, ウサギから見たら自分は巨大な大きさだと感じさせる.

また, 大福餅がつぶれない程度の力で優しく膝の上で包み込む. ギュッと持つと, 肺臓の入っている胸が動けなくて, 呼吸ができなくなるから.

(4) 気持ちを想像する

動物はみんなより小さいから, 怖がっているのは動物の方だから, 優しくしてあげて.

動物は言葉を言えないから, どうしたいのか, 何か困っていないかを考えて, 良くみてあげて.

@飼育導入授業の最初に, 子ども達に呼びかけること

「みんなは、なぜ毎日学校にきて勉強しているの？ そう、たくさん勉強して人よりいろいろ覚えて、良い仕事について、裕福な生活ができれば素敵ですね。でも、いろいろなことを勉強して、たくさんお金を稼ぐえらい人になっても、後で悪いことをしたら悲しいよね。そうならないように、人の悲しむことはしないで、人と仲良くでき、命を大事にする人になること。そして自分の好きな、得意なことで人の役にたって「ありがとう」って言われたら、それはとても幸せですよ。そのために今、勉強しているのじゃない？ 動物は口がきけないから、みんながその気持ちを考えてあげられるようになったら、お友達の気持ちもわかるようになりますよ。また動物が喜ぶように可愛がったり世話をしてあげたら、そのうち安心してなついてくれます。可愛いですよ。そしてその可愛い動物が死んだら悲しいでしょ。命とか、死ぬとかが分ります。なぜ死んでしまったかと、勉強したくなりますよ。

だから学校の先生方は、学校で動物を飼って、皆に可愛がってもらおうと思っているのですよ。」

又は、学校で、いろいろなことを勉強して、たくさんお金を稼ぐえらい人になっても、後で悪いことをしたら悲しいよ



ね。そうならないように、人の悲しむことはしないで、人と仲良くでき、命を大事にする人になること。

そのためにも小学生の今、勉強しているのですよ。

動物は口がきけないから、みんながその気持ちを考えてあげられるようになったら、お友達の気持ちもわかるようになりますよ。

また動物が喜ぶように可愛がったり世話をしてあげたら、そのうち安心してなついてくれます。可愛いですね。実は、動物が優しくなるかどうかは、みんながどのようにしてあげるかで、決まりますよ。

(全国学校飼育動物獣医師連絡協議会主宰)

